

令和4年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議について

1 設置目的

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項を調査審議するもの

【富山県民生涯学習カレッジ条例 第7条より】

2 委員名簿 13名（五十音順）

赤川 雅和	元富山短期大学幼児教育学科教授、新川地区センター運営会議会長
荒井 克博	富山県生涯学習団体協議会会長
上埜眞知子	富山県婦人会事務局長
大西ゆかり	富山県PTA連合会副会長
奥 敬一	富山大学芸術文化学部教授、高岡地区センター運営会議会長
神川 康子	富山大学名誉教授
笹田 茂樹	富山大学教育学部教授、富山地区センター運営会議会長
立田ひろみ	公募委員
寺山 収	富山県経営者協会専務理事
仲井 文之	元富山国際大学子ども育成学部教授、砺波地区センター運営会議会長
中川美彩緒	元富山県水墨美術館館長
藤田公仁子	富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授
本田 正則	富山県公民館連合会事務局長

3 会議概要

(1) 開催日時 令和5年2月27日（月）10:00～12:00

(2) 開催場所 富山県教育文化会館 ハイビジョン学習室

(3) 議題

- ・生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項について

(4) 会議資料

- ・令和4年度実績・令和5年度予定
- ・富山県民生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題
- ・地区センター運営会議 主な意見
- ・富山県民生涯学習カレッジの概要

(5) 配付資料（パンフレット等）

- ・学遊とやま
- ・とやま学遊ネット
- ・「おうちでシリーズ」第10弾 おうちで富山の情景〔色〕～白～
- ・令和5年度 自遊塾 塾生募集要項
- ・郷土学習教材「とやまの橋～人々の願い。記憶のメモリアル～」(チラシ・DVD)

4 審議事項等

■出席者

- 【運営委員】 赤川委員、荒井委員、上埜委員、大西委員、奥委員、神川委員、笹田委員、立田委員、仲井委員、中川委員、藤田委員、本田委員
- 【事務局】 吉田生涯学習・文化財室長、菊池学長、山田新川地区センター副所長、杉本富山地区センター副所長、岩河高岡地区センター副所長、島田砺波地区センター副所長、中村企画管理課長、細野社会教育主事、松井社会教育主事、高原社会教育主事、水上生涯学習・文化財室社会教育主事、木山囑託事務員

■開 会

(1) 学長挨拶

(新型コロナウイルスのため) 3年ぶりかつ学長就任以来、初めての対面での運営会議となった。今回は、主に今年度に関する会議だが、これまでの3年間を含めて協議されるものと思っている。平成19年3月の「県民カレッジのあり方検討会」で5点提言があり、これまで対応してきた。

- ① 学遊ネットの活用・・・令和4年3月に全面改良し使いやすくした
- ② ボランティア等の人材育成・・・自遊塾講座が100を超える
- ③ 映像センターの活用・・・コロナ禍でも貴重な映像を自宅視聴可能に
- ④ 生涯学習団体やボランティアなどへ支援・・・生涯学習団体協議会への助成した
- ⑤ 組織体制の見直し・・・本部を含め各地区センター最少人員で対応

学習専門員が「人生の先輩の受講者のキラキラした目で学ぶ姿が学校にいたころの子供たちと重なり勇気と元気をもらえている。教師の大切な役割だと感じ初心に帰ることができた。」と新聞に投稿した。

初心といえば、私が高岡地区センターに赴任した際、ウイング・ウイング高岡がオープンした時であり、全国へ発信するという気持ちで書いた文書がある。オープニングを始め、あの手この手でいろいろなことをして生涯学習を広げ心豊かにする、県民の皆さんの幸せを願って、今のウェルビーイングの先取りをしてきた。生涯学習は素晴らしい、皆さんからご支援をいただければありがたい、との思いで書いた。

今日は、皆様から忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

(2) 委員紹介

(3) 会長挨拶

3年ぶりの開催ということで、改選後初めての顔合わせだ。この3年間温めてこられたいろいろなご意見を忌憚なくお聞かせいただければ大変ありがたい。よろしくお願ひしたい。

■報告事項

(1) 令和4年度実績【議事関係資料 事務局説明】

① 講座関係

大型講座	4講座の開催 (夏季講座・人生100年時代生き方講座)
つながる学びわくわく講座	28講座の開催
人生100年時代特別講座	4講座の開催
共学講座	124講座の開催
映像センター講座	4講座の開催
自遊塾	76講座の開催
学習団体講座	4講座の開催

(富山県生涯学習団体協議会に委託)
連携講座 116 講座の開催

② 事業関係

生涯学習情報提供(とやま学遊ネット):アクセス件数1月現在755,707件昨年度より増
学習相談(主に電話や窓口による)も前年度より増加
本部学遊祭、地区学遊祭・キャンパスフェスティバルも増加傾向
カレッジ叢書 令和4年度人生100年時代生き方講座(梶田隆章氏)講演に関する叢書
116号を発行予定

③ 映像活用推進関係

ふるさととやまの映像の制作と配信
優秀映像鑑賞推進
映像貸出等利用支援

(2) 令和5年度事業予定【議事関係資料 事務局説明】

① 講座関係

ほぼ昨年どおり
「人生100年時代生き方講座」を「ウェルビーイング実現講座」として開設
自遊塾 制限の緩和、定員増

② 事業関係

ほぼ、昨年どおり
夏季講座では、元宇宙飛行士 毛利衛氏の講演を開催予定

③ 映像活用推進関係

ほぼ、昨年どおり

■富山県民生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題(事務局説明)

1 学習情報の収集・提供と学習相談への対応について

【現状】

- ・学習情報提供(とやま学遊ネットの検索性)H4.3更新、アクセス数3割増
視認性・操作性の向上、スマートフォン対応、バリアフリー化、自動読み上げサービス
- ・学習相談の充実 1月時点で昨年度の年間件数を上回る

【課題】

- ・新しく構築した「とやま学遊ネット」を活用し、学習情報提供をより充実させること
- ・学習相談の一層の充実を図ること

2 多彩な学習機会の提供について

【現状】(以下、令和4年度の実績)

- ・大型講座(夏季講座479名・人生100年時代生き方講座3講座689名)
- ・人生100年時代特別講座(6講座・552名)、
- ・つながる学びわくわく講座(28講座・742名うちオンライン受講87名)
- ・人生100年時代特別講座(4講座・135名うちオンライン受講18名)
- ・共学講座(124講座・599名) ・映像制作講座(4講座・56名)
- ・自遊塾(県民教授61名・76講座・917名)・学習団体講座(335名)

【課題】

- ・ウイズ・コロナの時代において受講機会を確保すること
- ・県民の学習ニーズに対応した講座を開設し、主催講座の受講者数を増やしていくこと
- ・60歳代及び50歳代の受講者数を増やしていくこと

3 映像による学習支援について

〔現状〕（以下、令和4年度の実績）

- ・映像の貸出等活用支援：学習教材等の貸出（1,102本・16,174人視聴）、とやまデジタル映像ライブラリー（2,059回再生）
- ・優秀映像鑑賞推進：優秀映像上映会（66回・1,059人）
- ・ふるさととやまの映像制作：R4制作「とやまの橋 ～人々の願い・記憶のメモリアル（全国自作視聴覚教材コンクールへ出品）」

〔課題〕

- ・映像学習教材等の貸出を一層増やしていくこと
- ・映像配信による映像学習教材の新たな利活用を一層推進していくこと
- ・優秀映像上映会の新たな参加者を一層増やしていくこと
- ・映像センター施設の新たな利用者を一層増やしていくこと
- ・制作する映像教材のテーマ・内容を検討すること（3年計画）

4 学習交流や学習成果の発表の支援について

〔現状〕（以下、令和4年度の実績）

- ・本部学遊祭（578人参加） ・地区学遊祭、キャンパスフェスティバル（合計1,215人参加）

〔課題〕

- ・学遊祭、キャンパスフェスティバルへの参加者を増やしていくこと
- ・コロナ禍の下、安心して参加できる交流の場を提供すること

5 県民カレッジの開所曜日と開所時間について

〔現状・課題〕（以下、令和4年度の実績）

- ・本部と新川・富山・砺波地区センターの開所曜日がほぼ同じに対して、高岡地区センターのみ異なり統一性がない。

■地区センター運営会議における主な意見（地区センター会長説明）

○新川地区センター

<学習機会の提供>

- ・とやま学遊ネットの更新
県全体のアクセス数は増えたが地区センターは少なくなった。
新しくできた学遊ネットの使い方について周知されていない。講座の中でも説明していく必要がある。
ネット環境（Wi-Fi）が良くないため、在宅での受講が制限されている方が多い。改善してほしい。コロナ禍対応として進めていかなければならない。
- ・ウェルビーイングは理解しづらい、言葉自体がわからないという意見があった。生涯学習講座こそがウェルビーイングであり、参加することにより広げられ成長させる。

<情報提供等>

- ・講座ごとの満足度アンケート
評価の観点を工夫し、受講して感じたワクワクやハラハラしたことを知るによりウェルビーイングを認識できるのではないかと。
地域の中でワクワクしている人や生活をしている人から話を聞くことにより、いきいき・ワクワクが広がっていくのではないかと。

<その他>

- ・生涯学習団体数が減っているということだが、改めて調査してほしい。

○富山地区センター

<学習機会の提供>

- ・50歳以下の年齢層を取り込むための方策についての意見が多く出た。家族で体験できるような講座を、子供の予定に合わせた時期に設定するなど考えてはどうか。
- ・オンライン講座をもっと充実させてはどうか。ただし、オンラインに不慣れな高齢の方に周知し、参加してもらうための方策を考える必要がある。
- ・カレッジでも富山市の「スマホ講座」のような講座を開設してみてもどうか。

<学習情報の提供>

- ・学遊ネットがスマホ対応になり非常に使いやすくなったが、地区センターの情報へのアクセスがわかりにくい。ブラッシュアップすれば、地区センターへのアクセスが増えるだろう。

<学習交流>

- ・高校生と一緒に学ぶという共学講座は、全国的にも大変珍しい。地の利を生かして充実を図ってほしい。

○高岡地区センター

<学習機会の提供>

- ・講座体系が非常にしっかりしていること、コロナ禍においても様々な工夫で学びを継承されていることを高く評価する。
- ・オンライン講座もスタートしたが、その時にしか視聴できないので1週間程度できるようにしてほしい。著作権処理等の問題もあるが今後の検討課題としてほしい。著作権処理された講座をモデル講座として YouTube で配信できれば、県民カレッジや地区センターへ行けばできる面白い体験や講座を知らせることができる。
- ・わくわくシアターの開催日時を周辺の賑わいを作り出す意味でも地域や周辺のイベントに合わせた日程とすることも必要ではないか。

<学習情報の提供>

- ・「とやま学遊ネット」が非常に見やすくなった。しかし、紙媒体のチラシでは、学遊ネットにアクセスすればどんな情報が得られるということがわかりにくいので、検討する必要がある。また、地区センターだよりでは、「地区センター」が生涯学習をするところと気づきにくく役所と勘違いされる方がいるので、「県民カレッジ」を大きくしたほうが良いという意見があった。

○砺波地区センター

<学習機会の提供>

- ・地域のことや偉人を学ぶ講座に応募者が多く、参加者も一緒に学んでいるということがあり活性化のヒントとなる。また、若い世代へのアピールとして若手講師の掘り起こしが必要という意見があった。

<学習情報の提供>

- ・わくわくシアターの上演日を小学校の振替休日にしたり、裏面にセンター主催講座を印刷したチラシを地区の小学生に配布したり、児童を通じて親や祖父母にセンターを知ってもらう工夫をしている。
- ・ワクワクシアターを見た小学生が地区センターを訪れるというある種の広がりを見せている。
- ・回覧板で講座案内を行っている。

■学習機会の収集・提供と学習相談への対応について

【会長】 以上、前半は県民カレッジの本部方から現状と課題について、後半は、各地区センターから意見、要望、報告を受けた。

それでは、この後、皆さんとの意見交換の場とするが、カレッジの資料で5項目いただいているので、順にテーマごとに、協議を進めたい。

最初に「学習情報の収集提供と学習相談への対応」についてお願いしたい。

【委員】 「学習相談」について、お尋ねしたい。

(とやま学遊ネットへのアクセス数が)3割増加しているが、各地区へのアクセス数が伸び悩んでいる。その理由は、どのような分析をされているのかということが1点。

2点目は、この学習相談というのは、望ましい学習相談を県民カレッジとして、例えばこんな学習室を開設して欲しいといったことがあるのか。

【会長】 1番目のテーマについて、ほかにご意見などあればお願いしたい。

【委員】 1点目は、学遊ネットが新しくなり、どのように利用していくかが、課題になる。

特にマイページである。マイページでは、学習者が、学習履歴を自分で入力する。→eポートフェリオで自分の学習履歴を見ながら、今後何をしたいか考えられる→その情報をもって学習相談に行けるというメリットがある。そして相談員が学習者に、今後の学習の提案をできる。その仕組みを作っていかなければならない。学習履歴を作ることができたら、それをどう活用していくのかというところを、県民カレッジから提示する必要がある。

2点目は、学遊ネット等の使い方をわかりやすく解説、説明をすること。富山大学の生涯学習相談窓口で対応しているが、県民カレッジ学遊ネットの使い方の相談があった。丁寧に対応してほしい。

3点目は、利用者に対しての学習期待を受けることが必要である。基本的なところからあらゆる形の学びをサポートしていくことが、富山県の姿勢だと思う。その部分を何とか早急に対応していただきたい。

4点目は、専門的に学びたい、資格を取りたいという学習者には、ぜひ大学を利用してほしい。これは私たちの国立大学でやっている。富山大学にも生涯学習の専門部署があり専門教員がいる。講座も連携をとっているので、お手伝いできる部分もあると思う。連携を集団的な仕組みの中で取れば良いと考えている。

【会長】 1番目のテーマにつきまして、まだご意見や質問はないか。

【委員】 新川地区センターでは、講座の一部を借りて学遊ネットの使い方などを説明する場面が必要だという意見があった。スマホの使い方やマイナンバーカードの使い方講座が富山市にはあると聞いている。そのような内容について講座の中で教えてほしい。その機種そのものの扱い方についても説明してほしいとの意見であった。

【会長】 学習情報の提供、各種相談について、たくさんのご意見をいただいた。

学遊ネットがリニューアルされて、関心が高まったということもあるだろう。カレッジの方から、現時点で答えられる範囲でお答えをお願いしたい。

【学長】 「とやま学遊ネット」については、委員からのご意見について検討し、さらにQ&Aのコーナーを作ることも考えたい。

また、地区センターからの報告で紙媒体の話があった。紙媒体での案内が中心であるが、この案内がなかなか広がっていかないという現実もある。ネットで広がるように、使い方もお教えできるように工夫をしていきたい。

また、学習相談は少人数で担当している。講座を受講された学習者が、それを発展させることができるグループを作って活動していただく、というようなことが理想である。例えば、過去に読み聞かせのボランティア講座を受講された方が、その中で読み聞かせのグループを作りたいとか、紙芝居をやってみたりとかということがあった。それを後押ししたことがあった。学習者の方々にグループを作り、小学校や幼稚園等に行って活動され、「自分のライフワークができてありがたい」といっておられた。このように、生涯学習を通して幸せを感じていただけることが、理想の学習相談だと思っている。

スマホの使い方、ネットの見方、という講座がどこにあるのか、という問合せが非常に多い。それらのことがネットでもわかるように、また学習相談でも即座に答えられるように、日々、研鑽していきたい。いろいろなご意見、相談を受けておりますので、今後ともよろしくお願いしたい。

■多彩な学習機会の提供について

【会長】 2番目の「多彩な学習機会の提供」について協議をしていきたいと思う。

【委員】 受講機会の確保として、オンライン配信を今年度も取り組まれ、105名の方の受講機会が確保されてよかった。もちろん、対面受講が一番だと思うが、いろいろな事情で会場に来られない方や若い世代の受講者を増やすためにオンライン配信は必要である。

オンライン受講者が主体的な学びにつなげるためには、質問や意見ができるなど双方向の受講形式が必要だと思う。どういう形でオンライン講座を高めているのか。

【委員】 自遊塾で、制限がとれて多くの方が講座に広がりを見せたということだが、どのような制限があったのか聞きたい。

自遊塾は、大きなお金をかけて講師を中央から招いたりせず、生涯学習で学んだ方が県民教授となって、多くの方にボランティアで講義をしたり、仲間を募ったりという素晴らしい制度だと思っている。制限の内容をより詳しく説明してほしい。

【委員】 各講座、特に自遊塾で、参加者の満足度などのアンケートは取っているのか。また、アンケートの結果を反映する必要があると思う。

自遊塾自体は大変素晴らしいことだと思うが、内容によってはいろいろな評価があると思う。そうした視点を聞きたい。

【委員】 本部の映像制作に関して、いろいろなことをしておられるなど感じているがよく知らない。映像制作の講座を開催されていたり、ボランティアも育成されたりしているが、成果がわからない。資料からは、手広くはされていない印象を持った。

会場がここだけなのかもしれないが、地区センターでも開催し、それぞれの地域での様々な伝統芸能などを受講者に記録してもらい、映像センターに収めていくような使い方もできるのではないのか。

生涯学習とは、まさに自分たちで調べて学んで新しい記録を作っていくことが非常に大事なことであり、さらに将来に受け継がれ残すことである。こうした形で、地域文化に貢献できる生涯学習のあり方があるのではないのか。

【委員】 若い人の受講が少ないということは、前から聞いていた。男性は仕事があるから土日ないと受講できないとか、平日なら女性が受けやすいなどということがある。

高岡地区の方から「女性活躍推進学び塾」の中で男性の視点が必要だと報告された。日本の社会というのは、男性と女性の共同参画社会といわれながらも男女平等ということが全くなっていない。先進国では最下位に近いとよく言われる。

確かに学習の場、生涯学習の場でも、学校教育でも男女平等ということでは、先進国でトップであるが、実際の社会の中で、家庭の中で、男女平等が日本では達成されていないと最近意識するようになった。そういう視点をもっと生涯学習の講座の中に入れてもらうことができないのか。今されている講座は、「ふるさとの学び」や「人生 100 年時代の生き方」など男女共通の内容である。新しい視点として、実際の社会では男性が中心で女性がいろいろ引っ込んでしまっている状態が多いのだということをもとに是正していくためには、家庭の中や社会の中でどういう男女の差が実際あるのかという点を積極的に生涯学習の場で発信してほしい。個人的な問題ではなく、日本全体の問題でもあるので、そういう視点をこれから取り入れてほしい。

【委員】 自遊塾の教授として開講して 8 年ほどになる。その中で、受講後にまだ続けたいと希望された方々と一緒に、現在 25 名ほどで、読み聞かせや朗読について勉強会を開きながら、年に 1 回発表する場を持っている。そうすると、みんな一生懸命になり、私自身もとてもやりがいを感じ、発表に向けて全員で何かを作り上げていく過程を楽しんだり、慰労会をしたりと生涯学習の楽しさをととても感じている。これは、この県民カレッジという組織を作っていただき、会議を開いて活動方法等について相談して下さるからこそだと心から感謝している。

そのメンバーと夏季講座や人生 100 年時代生き方講座に参加したが、その申し込みの際、センターへ受講料を納めに行ったが、電子マネーを利用できるようにならないか。そうすれば、受講者も増えるのではないか。

さらに若い人たちは YouTube を大変よく見ている。著作権の関係もあり大変かと思うが、カレッジも YouTube を活用することを検討してほしい。

【会長】 ここで一旦、事務局よりお願いしたい。

【事務局】 オンライン自宅受講について、これに関しては、Zoom を利用し、双方向で質問ができるようになっている。自宅からも大変多くの方が挙手という形で質問されている方が多い。

【事務局】 自遊塾については、講座終了時にアンケートを取っている。講師（県民教授）も見られる方が多く、意見を参考にしながら次年度に改善、発展した形で作っておられる。

制限については、コロナ感染症の対策として、部屋のキャパシティの半分以下で開催、換気の実施、マスクを着用しての活動というような制限があった。それを少しずつ緩和してきているところである。高齢者の受講者が非常に多いことから制限をしたが、それを少しずつ緩和し、コロナ禍以前のように一緒にやっけていけるように工夫しているところである。

若い世代の受講者をどのようにして増やすかについては、多くの方に協力していただいている。長く受講され、のれん分けというように新しく講座を開設している方もいる。また、新しい世代の方に引き継ぐというような世代交代という形で同じような講座を引き継いでいる方もいる。

オンラインの関係では、40 代、50 代の方も県民教授をやってみようと、ここ数年、少しずつであるが若い世代の方も参加している。

電子マネーに関しましては、オンラインの構築の時から考えており、県に要望していたが、県としてはまだ進められないとのことであった。県全体として、まだそこまで構築できないとのことであった。これについては、今後も検討していきたい。

男女共学の観点については、来年度からウェルビーイングの講座を始める。ジェンダー

の話に加え、富山県の生き方、社会の状態とかも学べる講座である。そのような話を聞ける方を講師として選定したい。

【会長】 映像センターの方からもお願いしたい。

【事務局】 今年度からスマートフォン撮影編集講座を開催している。大変人気の高い講座であるが、編集についてかなり細かいことをやらなければいけないので、人数を絞っている。次年度もスマートフォン撮影編集講座は実施予定である。映像を通して、スマートフォンの使い方も支援していくことができると考えている。

また、地域の行事等の記録をアーカイブ的に収めていけばいいのではないかとのご意見もいただいたが、広く集めている。ホームページ等でも周知しているが、なかなかそれが行き届いていない状況である。地域の行事などの映像を持ってきてもらうことがあるので、それらを集めて、ホームページ等で公開している。周知していきたい。

【学長】 学遊ネットの受講料納入については、先ほど委員の言われた通り、電子マネー等での納入の件についてである。カレッジでは、未だに現金または郵便小為替での納入で不便をおかけし、受講者の方々には申し訳ないと思っている。県全体がまだ本格的に取り組んでいない状況で、真っ先に電子マネーの利用ができるようにしたいと思っている。ぜひ皆さんで声を上げていただき、県全体で取り組んでいただけるよう、お願いしたい。

夏季講座や大型講座については、ネット申し込みができるようにした。気軽に申し込むことができるが、受講料の支払いは当日、ないしはその前ということになる。ネットで申し込みしていただいても当日払いのため、キャンセルも多いという面もある。できるだけ便利にしたいと考えている。

YouTube の件は、著作権の問題があり映像センターでも苦慮している。例えば、講座の画像をそのまま撮ってアーカイブ化することは、講師の方が嫌がられる。また、大型講座の講師の方は、絶対に録音しないで下さいと言われる。最近は、講演の一部が切り取られてネットで流されてしまうということがあるので、以前より厳しくなっている。

■映像による学習支援について

【会長】 3 番目のテーマ「映像による学習支援」についてご意見をお願いしたい。

【委員】 映像の利活用推進について。

先日、関係者と勝興寺へ行った。学遊ネットで検索したところ 11 本ヒットした。これを PR すればもっと利用が増えるだろうと思った。国宝になったのだから、最新の映像を作っていただいて素晴らしい映像を載せてほしい。空中散歩の映像があったが、ヘリコプターからの撮影か。(事務局：ドローンだ) ドローンの映像を増やしてもらいたい。

【委員】 ふるさととやまの映像シリーズは、とても分かりやすく、幅広い世代に受け入れられるナレーションになっている。映像とナレーションがマッチしている。評判がとてもよく今後も続けてほしい。映像の PR をもっとしてほしい。知らない県民が多いこと、映像を制作していることを知らない人も多い。

県民カレッジでやっていることを、もっと宣伝できる方法があればよい。

■学習交流や学習成果の発表の支援について

【会長】 4番目のテーマ「学習交流や学習成果の発表の支援」についてお願いしたい。これは、コロナ感染症への対応について一言お願いしたい。

【学長】 今年度から、マスク着用の上で、大型講座も600人定員のところに600人入っていただくようにした。来年度の講座に関しては、ほぼ全面解禁と考えているが、詳細はもう少し様子を見てからになる。

先ほど、自遊塾の制限についての話題があったが、これまで自遊塾で食べ物、飲食系の講座は制限し開催してこなかった。楽器の演奏や、歌を歌うなどもかなり制限していたが、来年度からは、制限しない見通しである。ただ、細心の注意をもってやっていきたいと考えている。

■県民カレッジの開所曜日と開所時間について

【会長】 5番目のテーマ「開所の対象曜日と開所時間」について、ご意見、質問等あればお願いしたい。

特になし

■その他

【会長】 5つのテーマについて、貴重なご意見をいただいた。他にご発言があれば、お願いしたい。

【委員】 50代以下の受講者をどう増やすかが課題になっていたが、子育て世代では平日は仕事週末は家事などで、なかなか時間も取れず参加も少ないと思われる。年代別受講者割合を見ていると、著名な方が講師の大型講座や人生100年生き方講座などは、その世代のニーズもあるように見える。興味があることについては参加したいと思っている50代以下の人も多いと思う。そういう人たちを増やしていけばよいと思う。

自遊塾の募集要項を、自分自身が受けたらどうかな、という視点で見ている。曜日の記載があり、平日開催でも1か月に半日で1回の講座もあるので、働き方で何とかするのはないかと思った。「自分自身の働き方改革として、やりたいこと、学びたいことに取り組めば人生が豊かになる。」このように呼びかけ、働きかけ、工夫することにより、自分自身にウェルビーイングとして帰ってくるのではと思う。

地域でもいきいきシニアの方や公民館でサークル活動をされている方が多くいらっしゃるが、公民館での活動に学びを取り入れたいという要望がよくある。

60代の方はこういうサークルには、あまり参加されずご自身で車を運転し遠くまで行かれる方が多い。しかし、運転をされなくなった世代の方々は、地区センターよりもさらに近くの地域の公民館で参加できるような学びを求めておられるという声をよく聞く。各公民館単位でも出前講座があったり、オンライン講座があったりすれば、高齢者の方々にとっては非常に大事な機会になる。そのようなことも考えてほしい。

【委員】 これまでのお話を伺い、少ないスタッフであらゆる世代、ニーズに応えていこうというカレッジの姿勢、カレッジの活動は素晴らしいと思った。

すべての講座に全世代とか全ニーズが盛り込まれることはない。子育て世代の忙しいお母様たちに届けたい内容とか、人生100年時代でリタイヤした男性が自立していくために届けたい内容とか、テーマはたくさん考えられると思う。何人受講したとかっていうの

も大事かもしれないが、本当に何を届けたいのかを考えて講座を設定すればよいと思う。これは高齢者に、これは働きながらワークライフバランスを考えている人に、届けばいいじゃないか、というふうに講座を設定すればよいと思う。各講座であまり欲張り過ぎないで、アンケートの受講者の声に耳を傾け、何が欲しいを把握し講座に組み込んでいけばよいと思う。

【事務局】 公民館での講座開設の話があったが、令和3年度から自遊塾の県民教授の方が、出前講座という形でいろいろな施設へ出向いて1時間程度の講座を開設している。今年度も要望があり8件ほどあった。多かったのは、笑い、ヨガや快眠の講座だ。その際に自遊塾の宣伝を行っている。

【会長】 時間もきたので、本日はこれまでとしたい。
県民カレッジの運営について、皆様から貴重なご提案をたくさんいただいた。
県民カレッジは、県民のみなさんの豊かな生活大きな役割を果たしているのも、その使命が大きいわけだが、今後とも頑張っていただけのようにお願いしたい。
本日はありがとうございました。

■生涯学習・文化財室 吉田室長

本当にお忙しい中、ありがとうございました。

私の方からは、この運営会議の今後についてご案内させていただきたい。従来、本部にカレッジ運営会議、県内各地区に、地区センター運営会議を置いている。

それぞれの運営について調査審議を行ってきたが、近年、各地区センターの機能や講座内容が充実してきていること、また、各地区センター運営会議において調査審議される内容が重複する傾向もあること、各地区センター運営会議の委員の代表の方、各地区の4名の方にご出席いただいているが、この代表の方がカレッジ運営会議の委員を兼ねていること、がある。より効率的、効果的な運営を図るために、地区センターの運営会議の機能をこのカレッジ運営会議に統合することを考えている。現在、このカレッジ運営会議の人数が13名、定員は15名だが、その中には各地区センターの代表1名ずつが委員になっていただいている。

この統合により、各地区からさらに1名ずつ、合計各地区2名の委員を任命させていただき、人数を現在13名から、17名の方に拡充するというので、より効率的、効果的、そして充実した運営を図れるよう手続きを進めていきたいと考えている。予定では、次期改選の令和6年1月1日からと考えている。

これまで各地区センターの運営会議において、いろいろとご理解ご協力いただいた委員の皆様には感謝を申し上げるとともに、引き続きカレッジ運営会議がますます発展するように生涯学習・文化財室としても、頑張っていきたいと思っている。

■閉 会【学長】

本日は、本当に有意義なご意見、ご提言をいただきましてありがとうございました。

これから、新しいカレッジイズムで頑張っていきたい。いろいろ手を広げ過ぎている部分もあるかと思うが、まだまだ足りない部分もある。今日いただいたご意見等を参考にしながら、さらに邁進して参りたいと考えているので、ご理解、ご支援のほどよろしくお願ひしたい。

今日はどうもありがとうございました。